

早稲田大学 人間科学学術院 人間科学会 諸費用補助成果報告書（Web 公開用）

申請者（ふりがな）	黒田 琳（くろだ りん）
所属・資格（※学生は課程・学年を記載。卒業生・修了生は卒業・修了年月も記載）	修士課程 2 年
発表年月 または事業開催年月	2025 年 9 月
発表学会・大会 または事業名・開催場所	ヒューマンインターフェース学会 2025
発表者（※学会発表の場合のみ記載、共同発表者の氏名も記載すること）	黒田 琳、百瀬 桂子
発表題目（※学会発表の場合のみ記載）	商品への関心度が注視点分布と顕著性マップの一致率に与える影響
発表の概要と成果（抄録を公開している URL がある場合、「概要・成果」を記載した上で、URL を末尾に記してください。また、抄録 PDF は別途ご提出ください。なお、抄録 PDF は Web 上には公開されません。） 本研究では、日常的な商品画像を対象に、参加者が感じる関心度と視線行動の関係を検討した。実験参加者は各商品の関心度を 7 段階で評価しながら視線を計測し、その視線ヒートマップと深層学習ベースの顕著性マップ（DeepGaze IIE）との一致度を比較した。分析の結果、SSIM、相関係数（CC）、平均二乗誤差（MSE）、AUC のいずれにおいても、関心度の高群と低群の間に統計的に有意な差は見られなかった。これは、顕著性モデルが関心度の違いにかかわらず、一定の予測精度を有していることを示唆している。一方で、関心度の高い群では視線が顕著性マップにより近い形で集中し、低い群では分散傾向が見られるなど、定性的には差が観察された。これらの結果は、顕著性モデルの有効性を支持すると同時に、主観的関心が視線に与える影響はより微細な注視パターンや戦略の違いとして現れる可能性を示している。	

※無断転載禁止